

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名	○大阪大学、広島大学、名桜大学、長崎大学
構想名称	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成
相手大学等名 (国名)	ナンヤン工科大学(シンガポール)、パヤップ大学(タイ)、シアークアラ大学(インドネシア)、デ・ラ・サール大学(フィリピン)、国立東ティモール大学(東ティモール)、国連平和大学(コスタリカ)

**[構想の目的及び概要]ビジョン、将来的な発展性**

現在 ASEAN 地域は、世界の成長センターの一つとして急速な発展を遂げ、域内の国民総所得が 1.5 兆米ドルに達し、人口も 5.8 億人にまで増加している。また、2015 年までに「政治・安全保障共同体」、「経済共同体」、「社会・文化共同体」の 3 本柱からなる「ASEAN 共同体」の実現を目指す動きも活性化させている。こうした中、日本も政治・外交面での対話の促進や、経済協力や経済連携の推進、そして、観光や文化交流の深化など、多方面での関係を広げ、実態としての「東アジア共同体」形成の動きは顕著になっている。しかし、「ASEAN 連結性(connectivity)」に向けた現在の議論の中で大学の役割は必ずしも当然視されていない。日・ASEAN 関係においても、「平和と人間の安全保障」という重要な政策分野における体系的な教育連携の機会是十分進んでいない。

そこで、本構想では、戦争の過去を転換し、連帯と信頼の絆で結ばれた共同体形成に進む日本と ASEAN 諸国の経験を基盤に、多様性を認め合い、同時代の地域や世界の問題にも共感と協力の精神で向き合っ、平和と人間の安全保障利益の増進に向けた理論的・実践的な知を共同で学ぶ場を作り出したいと考えた。そのため、本構想では、大学院レベルでの「平和=人間の安全保障」教育に実績を持つ大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学と ASEAN 地域の有力大学が、国連平和大学(国連総会決議に基づき設立されたコスタリカに本部を持つ大学)との戦略提携の下、ネットワーク型で「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を形成し、質保証を伴う充実したカリキュラム・単位互換・学位授与のモジュールに裏付けられた学生間の相互留学を実現し、地域や世界の課題解決に寄与する次世代の高品位な政策リーダーを育成していくことを目指すこととした。

言うまでもなく、「人間の安全保障」の視点は「平和国家・日本」の外交の柱であり、日・ASEAN 関係においても理念を行動に移していく必要がある。実際、経済の発展・成長には平和の維持・構築が不可欠であり、国家や地域の平和や繁栄は、そこに暮らす人々一人ひとりの尊厳と自己実現一すなわち、「人間の安全保障」利益の充足一が確保されてこそ初めて真の意味を持つことも見逃せない。

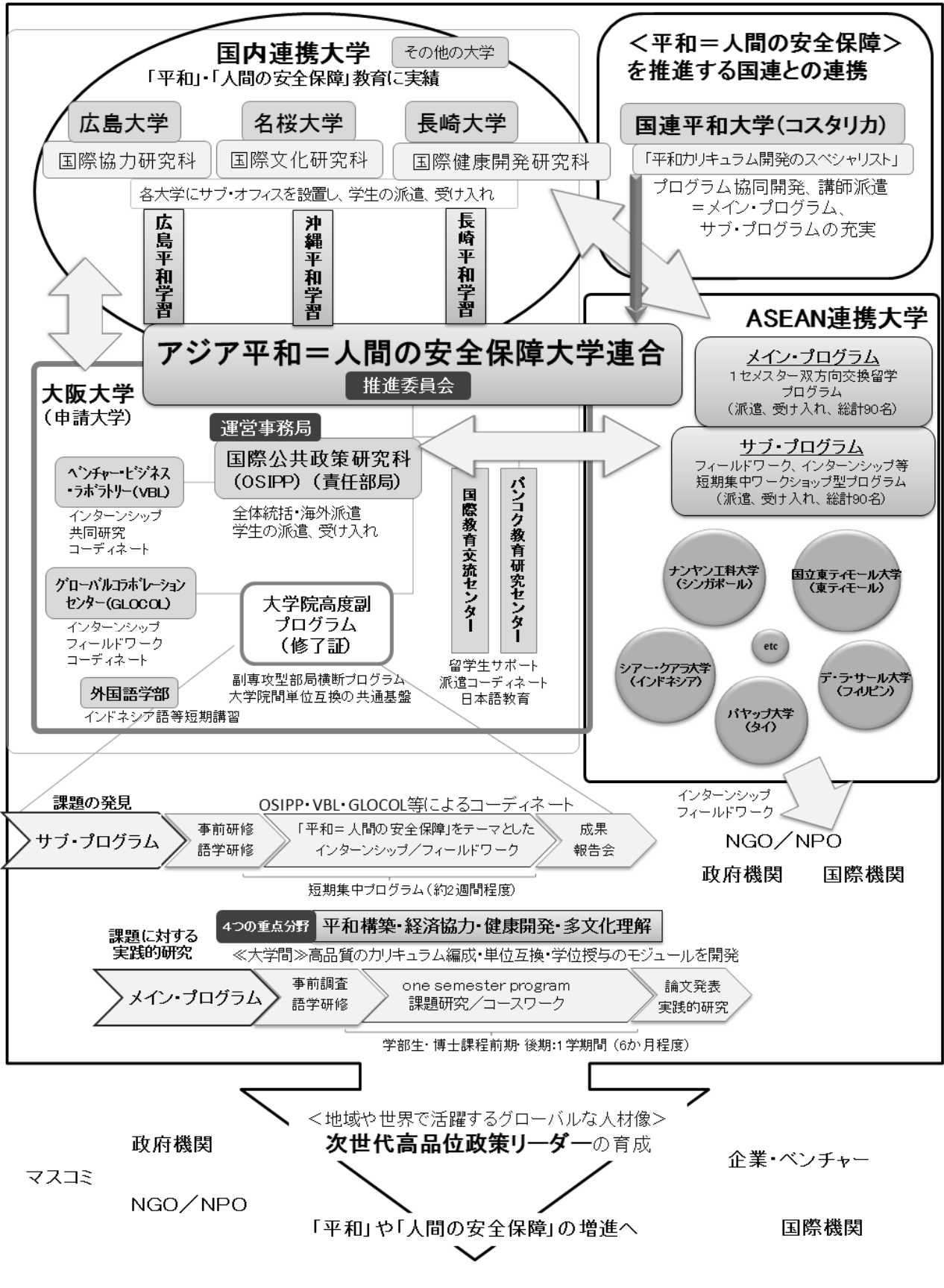
アジアには開発や貧困の問題に加え、紛争や政変、民主化に向けた課題もあれば、国際保健(グローバルヘルス)の推進や多様性の理解と平和共生の促進に向けた努力も求められており、いわば「平和=人間の安全保障」増進に向けた政策の現場と言える。本事業は、課題発見・解決に重点を置く政策指向の教育と研究を日・ASEAN の「大学連合」間の学生相互留学を通じて進めるものだが、彼・彼女らが、政府・国際機関・NGO・メディアなどに広がる政策コミュニティを牽引する次世代の知的リーダーとして活躍することを願っている。

＜概要＞

- ・本事業では、5 年の補助期間に、「平和=人間の安全保障」利益の増進に寄与する政策リーダーを日・ASEAN で合計 180 名輩出し、補助期間終了後も自律的な「大学連合」として研究・教育活動の継続・発展を目指す。
- ・大阪大学は、国際公共政策研究科を責任部局とし、学内の関係機関の全面サポートを受けつつ、「運営事務局」を打ち立て、ASEAN 諸国のパートナー校と「大学連合」を推進するとともに、国連平和大学と提携したカリキュラム開発を統合的に進める。
- ・留学プログラムは、「平和=人間の安全保障」利益の増進という全体テーマを見失うことなく、他方で、提携大学の研究・教育実績を踏まえ、「平和構築」「経済協力」「健康開発」「多文化理解」の 4 つを重点分野とし、1)メイン・プログラム(単位互換を伴う 1 セメスター交換型)、2)サブ・プログラム(フィールドワーク、インターンシップ等を含む短期集中ワークショップ型)、及び、3)前 2 者の連結型プログラム、を重層的に実施していく。
- ・コースワークは、大阪大学独自の「高度副プログラム」(部局横断の副専攻型プログラム)制度を用いた新コースを設定し、これを上記 1)~3) の留学プログラムとも結び、質保証を伴う単位互換や留学生参加可能な枠組みにする。当面は修了証プログラムとするが、補助期間終了までに段階的に各大学との協力関係を発展させ、ダブル(ないしジョイント)・ディグリー制度の実現に向けた体制も整備していく。
- ・本学としては、留学生インターンの受入れ、共同研究、起業化支援、就職支援等、出口戦略面も見据えた関西産業界からの協力の内諾を得ている。

平成23年度 大学の世界展開力強化事業の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

[構想の概念図]



平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	○大阪大学、広島大学、名桜大学、長崎大学
タ イ プ	A-II
構 想 名	「アジア平和=人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成
<p>〔評価コメント〕</p> <p>平和=人間の安全保障という、日本がリーダーシップを発揮すべき、かつ、グローバルに活躍する人材を育成する上で極めて重要なテーマに焦点づけられている。過去の歴史を乗り越え、新しいアジアの時代をリードする人材を育成する必要性が、積極的に示されている。</p> <p>また、特色ある日本の大学間で連携し、パートナー大学についてもプログラムの目標に見合った多様性のある連携が計画されており、これまで各重点分野において積み重ねられた実績に裏打ちされた一貫性のある内容となっている。</p> <p>英語以外の言語習得の必要性がプログラムの趣旨に添った形で配慮されているなど、教育プログラムに様々な工夫がみられる。</p> <p>なお、せっかく多数の大学が参加しているにもかかわらず、「メイン・プログラム」での交換留学が1セメスターと比較的短期間である点、一人の学生が実際に学習できる分野やプログラムが全体の一部に留まっている点など、構想全体と実際の学生の教育経験の間に大きな印象の違いが残る。大規模・多岐にわたるプログラム全体の特性が、教育実践において必ずしも有効に活かされないことが懸念されるので、実施に当たっては、さらなる検討が望まれる。</p>	